

第1学年の実践

東 由美

【単元名】「よく 見て かこう」

【教材名】「しらせたいな 見せたいな」(光村図書1年)

1 学級の実態

- ・ 小学校入学後に、平仮名の読み書きができるようになった子どもが多数いる。
- ・ 身近なことや体験したことを、二文程度で表すことができるようになり、書くことの楽しさを味わえるようになっている。
- ・ 何を書けばよいのか題材見つけに戸惑う子どもや、書こうとする題材に必要な事柄を集めることができず、書くことに苦手意識をもっている子どももいる。
- ・ 自分の書いた文を読み返す習慣がなく、表記ミスに気付かない子どもが多い。

2 言語活動

相手意識	目的意識	場面意識 (公/私)	ジャンル
家族	学校の中の好きな場所やものを知らせる。	私的	観察記録文

3 学習目標

(1) 態度目標

学校の中の好きな場所やものを見つけて、観察して書くことに興味関心を持つことができる。

(2) 価値目標

学校の中の好きな場所やものを観察し、書くことで、母校への愛着を深めることができる。

(3) 技能目標

- ◎ 書こうとする題材に必要な事柄を集めることができる。
- 文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに気付き、正すことができる。

(4) 年間技能目標における位置づけ (◎は重点的に指導)

月	単元	教材	ジャンル	課題	取材	論理	構成	記述	推敲	交流
7	すきなものをつたえよう	すきなものなあに	紹介					◎		○
9	えにつきをかこう	かけるようになった	体験報告	◎						
11	よく見てかこう	しらせたいな 見せたいな	観察記録		◎				○	
12	かるたをつくろう	あつまれふゆのことば	創作	◎				○		
3	おもい出してかこう	いいこといっぱい一年生	体験報告		○		◎			

4 単元構成図

単元名・教材名

よく 見て かこう

「しらせたいな 見せたいな」(光村図書1年上)

総時数8時間

学習の活動目標

学習目標

第1次 (2時)

※《》は評価規準

「よく見てかこう」「しらせたいな 見せたいな」という単元名からつないで、学習の計画を立てる。

教材文を読んで、知らせたいことや見せたいことについて話し合い、学習計画を立てることができる。《学習への見通しをもち、題材について話し合っている。》

何について、だれに知らせるのかを決めることができる。《学校の好きなところを見つけ、家の人に知らせる意欲をもっている。》

第2次 (2時)

取材カードに、知らせるものの絵を描き、見つけたことを書き込む。
〈本時〉

メモの必要性を理解し、取材カードに名前や色、形、様子などの特徴をかくことができる。《名前や色、形などの特徴をかき留めている。》

第3次 (3時)

書き込みからまとまりを見つけ、短冊カードにまとまりごとに文章を書き、書いた文章を推敲する。

書き込みメモを基に、1つのまとまりに1つの事柄を書くことができる。《主語を意識して、短冊カードにまとまりごと文章を書いている。》

書いた文章を、句読点や文字に気を付けて読み返し、間違いを直すことができる。《書いた文章を、句読点や文字に気を付けて読み返し、間違いを直している。》

書く順番を考えて短冊カードを並べ替え、1枚の紙に清書する。

考えた順番に沿って文章を書き、見直して清書することができる。《文章全体を見直している。》

第4次 (1時)

書いたものを家の人や友達に読んでもらい、感想を交流し、学習全体をまとめる。

自分の伝えたかったことが読み手に伝わる楽しさを味わうとともに、友達の文章のよさに気づき、感想を伝えることができる。《自分の感想を伝えている。》

5 学習活動と指導の実際

第一次

① 学習内容

(1) 「よく見てかこう」「しらせたいな 見せたいな」という教科書のタイトルを基に話し合い、学習の計画を立てる。(1時間)

(2) 学校の中の自分の好きなものについて、誰に何を知らせるのか、決める。(1時間)

② 指導内容

(1) 「よく見てかこう」「しらせたいな 見せたいな」という教科書のタイトルからつないで話し合いを進め、「学校の 中の じぶんの すきなものを しらせよう。」という単元を設定した。観察記録文への挑戦ということを意識付け、教科書にあるような取材カードをかくことを確認していった。「観察」「取材」という新しい言葉と出会った子どもたちは、これからの学習への期待感をもつことができた。資料1は、子どもたちが立てた学習計画である。

(2) 課題設定が苦手な子どもも主体的に書く題材を決めることができるように、生活科の学習で見つけたものや日常の生活の中で世話をしているものなど、学校の中にどんな素敵なものがあるか、まず、全体の場で共通理解を図った。子どもが思いをもっているものを発表し合い、みんなで楽しくこれまでの学校生活を振り返りながら題材を集めていくことで、一人一人の思いを深め「自分の好きな〇〇を知らせたい。」という気持ちを高めていった。さらに、学校の中にある自分たちの好きなものを家の人に知らせようという相手意識・目的意識を全体での話し合いを通して明確にしていった。

【資料1：子どもの学習計画】

《がくしゅうけいかく》

学校の 中の じぶんの すきなものを しらせよう。

- ① だれに なにを しらせるか きめよう。
- ② えと ことばで 「しゅざいカード」を かこう。
- ③ 「しゅざいカード」を ぶんに しよう。
- ④ かいた ものを 見なおそう。
- ⑤ せいしょを しよう。
- ⑥ かいた ものを よんで もらおう。

【資料2：話し合いで出された、学校の中の素敵なもの】

・チューリップ ・パンジー ・ピオラ ・うさぎ ・畑 ・中庭 ・池 ・田んぼ ・登れる木
・どんぐりの木 ・ジャングルジム ・サッカーボール ・落ち葉 ・もみじ ・大根

第二次

① 学習内容

取材カードに、知らせるものの絵を描き、色や形、様子などの特徴を書き込む。(授業1)(2時間)

② 指導内容

本学級の子どもたちは、形の特徴を捉え絵を描くことは上手にできるが、それを言語化し、表現することが苦手である。子どもたちが書き込みメモの必要性を理解し、よく見てかくことを意識できるようにするために、まず、「伝わらない観察記録文」を示し、どうして伝わらないのか考えさせるようにした。次に、具体的に何を見て書けば相手に伝わる文になるのか「観察の仕方」を話し合いを通して明確にしていった。校内に分散した実際の取材活動では、子ども達が色や形、様子などの特徴を取材カードに適切にメモできているかを確認するとともに、一人一人の取材活動のよさ（観察の仕方、メモ）を褒め、価値付けを行った。

第三次

① 学習内容

- (1) 書き込みから事柄のまとまりを見つけ、短冊カードにまとまりごと文章を書く。(2時間)
- (2) 書いた文章を推敲し、1枚の紙に清書する。(1時間)

② 指導内容

(1) 子どもたちが、取材カードのメモから事柄のまとまりを見つけ、まとまりごとに文章にすることを理解できるように、デジタル教科書の映像を利用し手だてとした。取材カードの中にランダムに書かれているメモの中から、必要な事柄のみ文章にしてまとまりごと表示される映像は、子どもの思考を整理する上で分かりやすいと考えた。また、まとまり意識を明確にもたせるために、文章にする際には、一つの事柄に一枚の短冊カードを使用した。

(2) 推敲は、短冊カードの段階で行った。文章に表記間違いが多く、清書前の早い段階で見直した方が後の活動がスムーズにいくからである。また、一度に見る文字数が少ないため、書くことに苦手意識がある子どもの抵抗感を除くこともできるからである。これまで、自分の書いた文章を見直し訂正する習慣のない子どもたちが、自分たちだけの力で見直しができるように、推敲の観点を3つ、資料3のように「見直しチェック表」に示し、短冊ごとにチェックした。その際、間違いが多い子どもが意欲をなくさないように、「書き間違いを発見する」ことに価値をおき、自分で訂正できたことを褒めた。そして、訂正があった場合も、ない場合も

見直しが済めば「見直しチェック表」に丸印をつけるようにした。また、始めは自分、次はグループと、複数の目で見直しができるように場を設定した。

最後に、推敲した短冊カードを並べ替え、1枚の紙に清書した。

	七まいめ	六まいめ	五まいめ	四まいめ	三まいめ	二まいめ	一まいめ	
				○	○	○	○	かきはじめは「マス」あけて、やみくもんとはいらない。 ことごとくたどっていく。
				○	○	○	○	
				○	○	○	○	

と	ら	げ	
り	で	で	は
で	い	す	す
す	ら		は
○	ば	に	お
		お	も
	き	い	て
	お	ね	は
	と	あ	
	り	り	さ
	と	ま	ら
	み	せ	さ

【資料3 「見直しチェック表」と推敲した短冊カード】

第四次

① 学習内容

書いたものを家の人や友達に読んでもらい、感想を交流し、学習全体をまとめる。(1時間)

② 指導内容

子どもたちが、自分の書いた文章を読んでもらうワクワク感や、自分の伝えたかったことが伝わる楽しさを味わうことができるように、清書した観察記録文をグループで回して読み合い、一人ずつ感想を言うようにする。感想を言う際には、本単元のめあてを振り返らせ、文章を読んで知らせたいものの色や形、様子の特徴などが伝わったかどうかを必ず言うようにさせる。資料4は、互いの「学校の中の好きなもの」を読み合った子どもたちの感想である。

その後、家に持ち帰り、家の人（伝えたかった相手）に読んで頂き感想をもらった。

【資料4 子どもたちの感想】

- まとまりが7つもあってすごいいとおもいました。
- はたけの大こんのことがすごくよくわかりました。はっぱは、ざらざらなんだとおもいました。
- ぼくも、学校のどんぐりの木がすきです。おなじだね。38こもどんぐりがおちていいな。
- うんどうじょうのすみっこにあるおちばは、いろいろないろできれいだということがわかりました。ほそいせんがいっぱいあるなんてきづきませんでした。パリパリおとがするのとしなのがあっておもしろいです。
- うさぎのことがわかりました。はなをびくびくさせているところをわたしも見たいです。
- パンジーは、ちかづくといいにおいがするってわかりました。いろもきれいでいいです。
- サッカーボールのくろいところと白いところは、かたちがちがうことがわかりました。よく見ているなあとおもいました。くろいところはつぶつぶもあることがわかりました。Aくんがけったら田んぼのはしからはしまでいくけれど、ぼくはどのくらいいくかやってみたいです。

6. 授業の実際

授業1 取材の指導について

(1) 授業の計画

教師の手だて	(2) 授業の実際	児童の意識の流れ
	<p>【本時でつきたい力】 メモの必要性を理解し、取材カードに名前や色、形、様子などの特徴を書くことができる。</p>	
<p>「伝わらない観察記録文」を示し、メモの必要性を理解できるようにする。</p>	<p>【本時の言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察の仕方を話し合う。 ○ 取材カードに名前や色、形、様子などの特徴を書く。 	<p>言葉で詳しく書かないと伝わらないんだな。メモをたくさん書きたいな。</p>
<p>「観察の仕方」を分かりやすく絵を使って示し、視覚的に捉えられるようにする。</p>	<p>【本時の活動計画】</p> <p>① 本時の学習課題を確認する。</p>	
	<p>しゅざいカードに しらせたいことを えとことばで かこう。</p>	<p>何を書いたらいいのかな。</p>
	<p>② 教師の書いた観察記録文から、イメージ画を描き、言葉で詳しく書くことの大切さを知る。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 詳しく書いていない観察記録文を読み、イメージ画を描く。 ○ 詳しく書いている観察記録文を読み、イメージ画を描く。 	<p>色や形、大きさ、数などを よく見て書くんだね。</p>
	<p>③ 観察の仕方を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 何をよく見て書くのか話し合う。 ○ 「目の力」のほかにもないか話し合う。 	
	<p>目の力…見る（色・形・大きさ・数・様子など） 耳の力…聞く はなの力…におう ひふの力…さわる</p>	<p>目の力の他にも使える力があるんだね。観察は、面白いな。</p>
	<p>④ 取材カードに知らせるものの絵を描き、名前や色、形、様子などの特徴を書きこむ。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取材カードに、知らせたいものの絵を描く。 ○ 観察したことを、短い言葉で書き込む。 	

① 本時の学習課題を確認する。

前時までの学習で、誰に何を知らせるかを決定し、目的意識・相手意識をもった子どもたちは、「自分の好きなものを取材カードにかきたい。」という意欲に満ちていた。子どもたちとつくった学習計画に沿って、本時の学習課題を確認した。

めあて しゅざいカードに しらせたいことを えとことばで かこう。

② 教師の書いた観察記録文から、イメージ画を描き、言葉で詳しく書くことの大切さを知る。

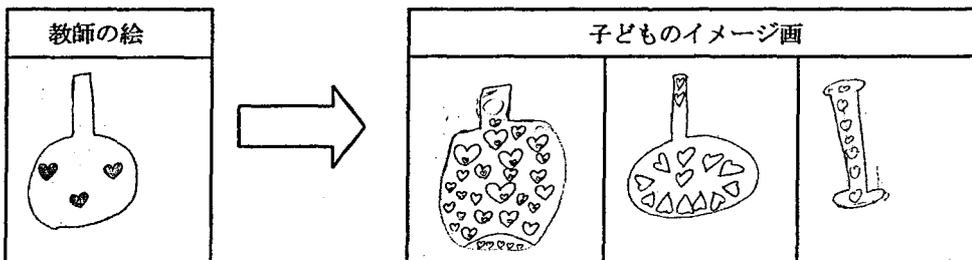
本学級の子どもたちは絵を描くことは上手にできるが、それを言語化し、言葉や文で表現することが苦手である。子どもたちが書き込みメモの必要性を理解し、よく見てかくことを意識するために、詳しく書いていない観察記録文と詳しく書いている観察記録文を例示し、次のように話し合いをした。

○詳しく書いている観察記録文

T 先生の家にある先生の大好きなものを、文章で書いてきました。今から読むので、想像して描いてみてください。

先生の 大すきなものは、花びんです。花びんの かたちは、下のほうが まるく、上のほうが ほそながく なっています。ハートの もようが ついています。

T これが、その花瓶の絵です。



C1 うわあー、全然ちがう。

C2 先生、ハートが3こって、ちゃんと言ってくれないと わかりません。

C3 詳しく、赤いハートが3こって教えてください。

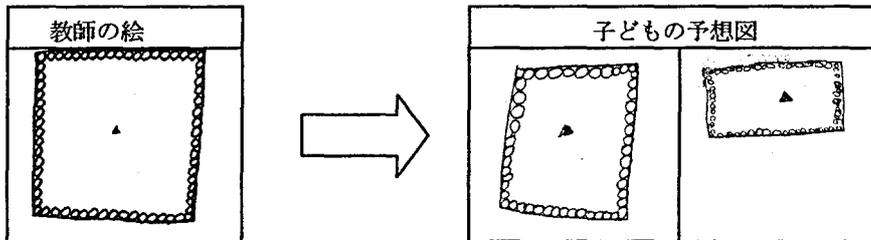
T ごめんなさいね。先生、絵には上手に描いたのだけどな…。

C4 絵は見えないので、言葉で教えてくれたら、わかります。

T そうですね。では、もう一つ、先生の好きなものを紹介します。今度は、詳しく書きました。

先生の おきにいは、まくらです。かたちは、おりがみ みたいな しかくです。もようは、まわりに 小さな まるが たくさん ぐるっと つながって ならんでいきます。そして、まん中に 小さな あかい さんかくが あります。

T これが、その枕の絵です。



C5 うわあー、先生と同じ。すごいつ。みんなも、にているね。

言葉を頼りにイメージする活動を行うことにより、「描いたことを詳しく言葉にして表現しなければ、それを知らない相手には伝わらない。」ということが子どもたちに実感をもって理解された。

7 実践のまとめ

(1) 成果

価値目標

学校の中の好きな場所やものを観察し、書くことで、母校への愛着を深めることができる。

学校の中の好きな場所やものを決め、文章で書くことを通して、子どもたちは、自分の好きなものについての認識を強めていった。また、家の方や友達に紹介することを通して、好きだという思いが確信に変わっていったようである。さらに、交流活動では、自分の学校の中にある「友達の大好き」を知り、その思いを共有することで、一人一人の子どもに「学校の大好き」が広がり、母校への愛着をより一層深めることができたと感じている。

態度目標

学校の中の好きな場所やものを見つけて、観察して書くことに興味関心を持つことができる。

初めての観察記録文への挑戦である。子どもたちは、自分の好きな場所やものを文章で家の人に伝えようと意欲的に取り組むことができた。目的意識・相手意識を単元の最初からもたせたことが観察して書くことへの意欲的な姿勢に繋がったと思う。視覚のみならず、五感を使った観察の仕方やメモの書き方に興味・関心をもち、楽しく観察することができていた。

技能目標

◎ 取材カードに名前や色、形、様子などの特徴を書くことができる。(取材)

○ 書いた文章を、句読点や文字に気を付けて読み返し、間違いを直すことができる。(推敲)

相手に伝わるようにするためには、よく観察し、詳しく書くことが必要である。そのため、本単元では、取材活動に重点をおいた。取材カードに詳しく書き込むために「伝わらない観察記録文の体験」と「観察の視点」の二つを手立として取った。ゲーム感覚で行った伝わらない観察記録文の体験により、子どもたちは、言葉や文できちんと書かないと相手に伝わらないということを印象深く理解することができた。また、同時に、書き込みメモの必要性を認識することができた。さらに、話し合いを通して観察の仕方を主体的に考え、教師が視覚的な掲示でまとめていったことは、書くことに抵抗感がある子どもにも分かりやすく、取材活動への意欲を高めることに効果的であった。

これら二つの手立では、「分からない→書くことの大切さが分かる(必要感が生じる)→書き方が分かる→できる」という子どもの思考過程を辿り、主体的な取材活動へと繋がり、有効であった。また、推敲は、「見直しチェック表」に印をつけながら、一度目は自分、二度目はグループで行った。複数の目で行うことによって、間違いに気付きにくい子どもも、しっかりと自分の書いた文章を読み返すことができた。

(2) 課題

- ・ 語彙不足により、ものの特徴を上手く言葉で表現できない子どももいる。絵本の読み聞かせや言葉集め、音読等を通して語彙を増やし、表現力を高めたい。
- ・ 主語と述語の繋がりや句読点の打ち方、助詞の使い方等に間違いが多い。継続して推敲指導に取り組み、書いたものを一文一文丁寧に読み返す習慣を付けていきたい。

(3) 単元を終えて

学習後、生活科の気付きカードの中に小さな変化を見つけた。それまで、絵を中心にかいていた子ども

もが、言葉で書いて表現できるようになっていた。まだまだ、つたない文章ではあるが、書いて表現する楽しさを味わえるようになったことに大きな成長を感じている。本単元の重点指導目標であった取材の仕方（観察の仕方）を理解することによって、ものの見方が分かり、絵だけでは伝わらない詳しい情報を書いて伝えることができるようになったのであろう。改めて、ものの見方、考え方の観点を指導することの大切さを感じた。

また、今回、五感を使って観察するという、一年生の指導事項以外の内容も指導したが、身体を使って感じることの得意な本学級の子どもたちにとっては、大変分かりやすい内容であった。生活科の「春みつけ」の単元では、池に手を入れ、水温の変化に気付く子どもや、桜の花のかすかな香りを楽しむ子どもなど、生き生きと観察し記録する子どもたちの姿が見られた。学級の実態に応じて、長所は生かし、課題には対応し、指導事項はある程度、柔軟に取り扱ってもよいのだと感じた。また、そのためには、当該学年のみならず全学年の指導内容と系統を念頭に、付けたい力を確実に付けていくことが、言語の教科の国語科として特に大切だと思った。